

小学校国語科学習指導案

広島県立教育センター
指導主事 中島 早織

1 学年 第6学年

2 単元名

物語の全体像を具体的に想像し、比較読みを生かして読みを深化させよう
～「ニャーゴ」との比較読みを通して～（「風切るつばさ」東京書籍「新しい国語 六」）

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）国語第 5 学年及び第 6 学年〔知識及び技能〕（1）「オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと（1）「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に基づいて設定するものである。

物語の全体像は、登場人物や場面設定に関わる叙述を基に場面の移り変わりを捉え、物語の世界を豊かに想像することで捉えられる。特に、「何が書かれているのか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像する力を育成する上で重要である。

本単元で扱う教材「風切るつばさ」は、仲間への不信感から自己否定に陥り、飛ぶことを諦めた中心人物が、対人物の行動や様子をきっかけに、もう一度人を信じる気持ちを持ち、羽ばたく物語である。中心人物や対人物の設定や人物の相互関係、物語の展開、語り手などに様々な工夫がなされており、表現面の工夫に着目することで物語の世界を豊かに想像することができるという特徴をもつ。したがって、物語の全体像を具体的に想像する力を育成するのにふさわしい教材であると言える。

4 児童観

第 5 学年「人物像について考えたことを伝え合おう」の単元において、人物の行動や会話、様子などを表す複数の叙述を結び付けて「大造じいさんとがん」を読み、人物像を具体的に想像する学習を行った。この学習において、中心人物の心情が変化するきっかけとなった、対人物の行動や様子に関わる叙述を丁寧に捉え、中心人物の心情がどのように変化したかについて具体的に考えた。その際、児童は人物の相互関係を手掛かりにすると、人物像や物語の全体像を豊かに想像できることを学んでいる。

本年 4 月に行った学力調査では、登場人物の心情について描写を基に捉えることや、登場人物の人物像を具体的に想像することに課題が見られた。その理由として、登場人物の心情について考える上で重要な会話や行動、情景に関わる叙述を見付けることができないことや、複数の叙述を結び付け、人物像を具体的に想像することができないことが考えられる。

5 指導観

児童に目標とする資質・能力を育成するために、指導に当たっては、次の工夫を行う。

① 学習の見通し

本単元では、「比較読みを生かして「風切るつばさ」を読み、物語の全体像を具体的に想像し、分かったことや考えたことを説明する」という言語活動を設定する。

単元の導入において「大造じいさんとがん」を教材とした、〔思考・判断・表現〕(1)「エ 物語の全体像を具体的に想像している」という評価規準について「おおむね満足できる」状況(B)を満たす具体例を示し、児童が分析するという学習活動を通して、「おおむね満足できる」状況(B)を明確化させる。その上で、単元の目標と言語活動を共有し、学習の見通しをもたせる。

② 比較読み

本単元では、「ニャーゴ」との比較読みを行う。登場人物の行動の背景には、その行動に至るまでの気持ちがある。「ニャーゴ」は、ねこの行動の背景にある、子ねずみに対する気持ちの変化していく過程が丁寧に描かれている。したがって、「ニャーゴ」と比較読みをすることで、「風切るつばさ」において、中心人物の行動に至るまでの気持ちの変化や蓄積を具体的に捉えることができる。

本単元では、第一、二次で「風切るつばさ」を読み、会話や行動、様子に関わる叙述を手掛かりに心情の変化について考え、物語の全体像を捉える。第三次で「ニャーゴ」を読み、心情の変化や、変化のきっかけとなった出来事を捉え、物語の全体像を具体的に想像する。この学習において、表現面に着目する際のポイントをつかむ。第四次で再び「風切るつばさ」を表現面に着目して読み、第二次で捉えた物語の全体像を検討し、具体的なものにする。第四次の学習活動は、第三次の学びを生かして、児童に自力読みを促す活動である。「ニャーゴ」の学びで得た「どのように描かれているか」という表現面に着目する際のポイントを「風切るつばさ」で活用させる。この単元構想により、比較読みを通して、物語の全体像を具体的に考える力の育成を目指す。

③ ICTの活用

物語の全体像について説明する際、プレゼンテーションソフトを用いて説明のためのメモを作成させる。加筆・修正した箇所は色を変えさせたり、交流における評価や助言、交流を受けての加筆・修正した箇所はコメント機能を用い、変更した意図や理由を記入させたりするなどして、推敲の経緯が分かるようにする。それにより、児童が、自分の考えの変容を振り返ることができるようにする。

6 単元の目標

- 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

- 物語の全体像を具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

7 言語活動

比較読みを生かして「風切るつばさ」を読み、物語の全体像を具体的に想像し、分かったことや考えたことを説明する。

(C読むこと(2)イに基づく)

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像している。	粘り強く、物語の全体像を具体的に想像し、今までの学習を生かして分かったことや考えたことを説明しようとしている。

思考・判断・表現における「おおむね満足できる状況」(B)の例

「ニャーゴ」は、やさしさについて考えられる物語だと思いました。なぜなら、ねこは子ねずみのやさしさを知っていくうちに気持ちに変化していき、子ねずみを食べられなくなってしまうからです。二場面には「ぼくは、弟におみやげ。」とあって、これは子ねずみの自分の家族に対するやさしさです。また、「たまおじさんは、弟か妹いるの。」とあって、これは子ねずみのねこの家族に対するやさしさです。ねこは子ねずみのいろんなやさしさを知っていくうちに、子ねずみを食べられなくなってしまう。私は、「ニャーゴ」を読んで、ねこが子ねずみを食べられないという気持ちにじわじわ追い込まれていくところが面白いと思いました。

「風切るつばさ」は、仲間の大切さについて考えられる物語だと思いました。なぜなら二場面で「友達も仲間も何もかもが信じられない」と思ったクルルが、カララの覚悟を知っていくうちに気持ちに変化していき、四場面でカララを信じて飛べるようになったからです。三場面には「南の空からまい降りてくる一羽の鳥が見えた」とあり、カララは、一度は他の仲間に流されかけたけど、自分だけでもクルルを助けようと覚悟して戻って来ました。他にも、「カララは何も言わなかった」とあります。何を言っても言い訳にしかないと分かっているから、責められても受け入れようと覚悟しているのだと思います。

「ニャーゴ」を読んで「風切るつばさ」の全体像を考えると、クルルはカララの覚悟を知っていくうちに、少しずつ人が信じられるようになっていっていることが分かりました。「ニャーゴ」も「風切るつばさ」も、主人公の行動は急に変わるわけではなく、相手のやさしさや覚悟を知っていくことで、だんだん気持ちが変わっていき、行動の変化につながると分かりました。私は「風切るつばさ」を読んで、かたくなだったクルルの気持ちがじわじわ解けていくところが面白いと思いました。

思考・判断・表現における「努力を要する状況」(C)への手立て

① 複数の叙述を結び付けることにつまずきが見られる児童への手立て

叙述の中の語句を比較し、繰り返し出てくる語句や、よく似た意味をもつ語句を見付けさせ、線を引かせる。共通点をもつ語句を手掛かりにして、結び付ける叙述を選択させる。

② 表現面に着目することにつまずきが見られる児童への手立て

物語の「どのようなところが面白いのか」を考えさせ、物語の表現面における工夫を考えさせる。その際、中心人物の心情の変化と変化のきっかけとなった対人物の行動や様子を捉えさせ、これらを矢印でつなげることで、物語の展開に関わる工夫について考えさせる。

9 指導と評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の物語を振り返り、共通点や相違点を挙げ、物語を比較読みする楽しさや効果について話し合う。 ○ 単元の目標や言語活動を共有し、学習の見通しをもつ。 ○ 思考・判断・表現の評価規準に基づいて指導者が作成した「大造じいさんとがん」の具体例をグループで分析し、「おおむね満足できる」状況を共有する。 	<p>【共有の具体的な方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大造じいさんとがん」の具体例から「おおむね満足できる」状況(B)を満たす記述を色分けして線を引かせる。 ・線を引いた理由をグループで交流し、どのような記述があれば身に付けたい力が身に付いたと判断できるのかという具体をイメージさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔知識・技能〕 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っているかについて確認する。 </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「風切るつばさ」を読み、登場人物の心情の変化を捉え、構造と内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動を手掛かりに場面の展開を捉えさせる。 ・行動や会話、心情に関わる描写に線を引き、矢印でつなげさせることで、行動に至るまでの心情の変化を辿らせる。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行動や会話、心情を表す語句を、共通点や相違点を手掛かりに分類したり、関係付けたりし、類義語や対義語という語句と語句との関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味や、語尾などの語句のつくりを手掛かりにして、共通点や相違点を見付けるよう声掛けをする。 	
二	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第二時で捉えた、登場人物の心情の変化に関わる叙述の中から、物語の全体像について考える上で重要だと考える叙述を取捨選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二時で線を引いた叙述を、矢印の数を基に重要度の観点で比較させる。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の叙述を結び付けて物語の全体像を捉え、分かったことや考えたことを、説明するメモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時で選択した叙述を結び付けるよう意識させる。 <p>習得 複数の叙述を結び付ける際のポイントをつかませる。</p>	
三	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ニャーゴ」を読み、中心人物の心情が変化するきっかけとなる、対人物の行動や会話に関わる叙述に線を引き、発表する。 ○ クラスで挙げた叙述から、重要だと考える叙述を取捨選択する。 ○ 複数の叙述を結び付けて、物語の全体像について考え分かったことや考えたことをメモにまとめる。 	<p>活用 複数の叙述を結び付ける際のポイントを活用させる。</p>	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねこの心情が変化する過程が、どのように描かれているかという表現面に着目して、物語の全体像をもう一度考え、メモを加筆・修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねこの心情の変化の過程が、物語の展開や人物像、表現等にどのように描かれているかについて着目させ、表現面の工夫を捉えさせる。 <p>習得 「どのように描かれているか」という表現面に着目する際のポイントをつかませる。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・表現面に着目するための着眼点を次のように例示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の設定 ・登場人物の相互関係 ・物語の展開 ・語り手 	
四	8	<p>【本時】</p> <p>○ 第三次の学習を基に、表現面に着目して「風切るつばさ」の物語の全体像を再度考え、プレゼンテーションソフトのメモを加筆・修正する。</p>	<p>【活用】</p> <p>「どのように描かれているか」という表現面に着目する際のポイントを活用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニャーゴ」で考えた物語の全体像を生かして、「風切るつばさ」の全体像を考えるよう声をかける。 	<p>〔思考・判断・表現〕 説明のためのメモ (プレゼンテーションソフト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、物語の全体像に関わる記述について、内容面と表現面の両面から具体的に想像しているかどうかを確認する。
	9	<p>○ 前時における物語の全体像に、共通点が見られる児童同士によるグループで交流し、自分の考えに役立つものを取り入れ、メモを加筆・修正し、完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流は次の観点を基に2回行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1回目：同じ着眼点を選択した児童同士 2回目：1回目の交流において、表現面に関わる考えに、共通点が見られた児童同士 ・交流における評価や助言は、コメント機能を用いて記録を残すよう指示する。 ・加筆・修正した箇所は色を変えたり、コメント機能で変更した意図や理由を記入させたりするなどして、推敲の経緯が分かるように記録させる。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕 メモの加筆・修正における推敲履歴 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、第三次の学習や、第9時の交流を生かして、粘り強く物語の全体像を具体的に想像しようとしているかについて確認する。
	10	<p>○ グループの代表による発表を行い、物語の全体像を学級全体で共有する。</p> <p>○ 物語を比較読みすることによってどのように読みが広がったり深まったりしたかについて話し合い、比較読書の効果を共有する。</p>		

10 本時の展開（第8時）

(1) 本時の目標

「ニャーゴ」の学習を生かして、「風切るつばさ」が「どのように描かれているか」について考え、「風切るつばさ」の物語の全体像を具体的に想像することができる。

(2) 準備物

プレゼンテーションソフトのメモ

(3) 学習の展開

分	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への手立て	評価規準 評価方法等
2	1 本時のめあてを確認する。		
「ニャーゴ」の学習を生かして、「風切るつばさ」の物語の全体像が「どのように描かれているか」を考えよう。			
3 5 20 10	<p>2 第二次でまとめた「風切るつばさ」の物語の全体像を振り返り、根拠とした叙述を発表する。</p> <p>3 友達の発表を聞き、根拠として挙げている叙述が、物語の全体像と適切に結び付いているかを検討し、根拠とする複数の叙述を再度選び直す。</p> <p>4 複数の叙述を結び付けて、物語の全体像が「どのように描かれているか」について考える。 活用 「ニャーゴ」における学習を参考に、自力読みをする。</p> <p>5 「風切るつばさ」の物語の全体像を再度考え、プレゼンテーションソフトのメモを加筆・修正する。</p>	<p>・物語の全体像と根拠を比較し、言葉の意味、働き、使い方等に注目して、根拠として挙げている叙述が適切であるかどうか、もっと根拠としてふさわしい箇所は無いかを吟味させる。</p> <p>◆叙述の中から、物語の全体像と同じ言葉やよく似た意味を持つ言葉を挙げさせ、言葉の意味を手掛かりに、根拠とする叙述を選び直すよう声掛けをする。</p> <p>・物語のどのようなところが面白いと感じるのかを考えさせ、表現面の工夫について考えさせる。</p> <p>活用 「どのように描かれているか」という表現面に着目する際のポイントを活用させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>表現面に着目するための着眼点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の設定 ・登場人物の相互関係 ・物語の展開 ・語り手 </div> <p>◆中心人物の心情の変化と変化のきっかけとなった対人物の行動や様子を捉えさせ、これらを矢印でつなげることで、物語の展開に関わる工夫について考えさせる。</p> <p>・「大造じいさんとがん」の具体例を振り返らせ、表現面に着目している記述例を参考にさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〔思考・判断・表現〕 説明のためのメモ (プレゼンテーションソフト)</p> <p>・ここでは、物語の全体像に関わる記述について、内容面と表現面の両面から具体的に想像しているかどうかを確認する。</p> </div>
5	8 本時の学習のまとめをし、振り返りを記入する。	<p>・感想を書くのではなく、「どのように描かれているか」という表現面に着目する際に、意識したことや、参考にしたことについて記述させる。</p>	

11 思考・判断・表現の評価規準に基づいて指導者が作成した「大造じいさんとがん」の具体例
 「大造じいさんとがん」を使って「身に付けたい力」を具体的にイメージしよう

6年()組()番()

[身に付けたい力]	物語の全体像を具体的に想像すること。
言語活動	比較読みを生かして「風切るつばさ」を読み、物語の全体像を具体的に想像し、分かったことや考えたことを説明する。

活動

中島さんは、「大造じいさんとがん」を読んで、物語の全体像について説明する文章を書きました。次のポイントは説明文の、どの記述に書いてありますか？色分けしてみましょう。

「身に付けたい力」を判断するポイント

場面の移り変わりを捉え 登場人物の相互関係を手掛かりにして 物語の全体像を具体的に想像すること。

複数の場面を結び付けているかな？

→青で線を引こう
 なぜ、そのように色分けしたのかな？説明しよう。

登場人物の行動や会話、様子を根拠に挙げて、相互関係を捉えているかな？

→赤で線を引こう
 なぜ、そのように色分けしたのかな？説明しよう。

「何が書かれているか」と「どのように描かれているか」の両方に着目して、物語の全体像を具体的に想像しているかな？

→黒で線を引こう
 なぜ、そのように色分けしたのかな？説明しよう。

私は、「大造じいさんとがん」は、自分を反省することができる物語だと思いました。なぜなら、大造じいさんが残雪のすがたを見て自分を反省し、変化するからです。

二場面に「今年こそは目にも見せてくれるぞ」とあります。「今年こそは」とあり、何度もしてやられたくやしさを晴らそうとしています。しかし、四場面には「ひきょうなやり方でやつけたかあないぞ」や「がんの英ゆう」とあります。この二つの場面から、くやしきでいっぱいだった大造じいさんが、自分のひきょうなやり方を反省し、残雪を尊敬する気持ちへと変わったことが分かります。

私は、この変化のきっかけは、仲間を守ろうとする残雪のすがただと考えました。本文には、「ただ救わねばならぬ、仲間のすがた」とあります。他にも「仲間を指導して」とあり、残雪がずっと、仲間を守ろうと努力してきたことが分かります。だから、大造じいさんは「じゅうを下ろし」ます。仲間を守ろうと戦っている残雪を、横からうつのはひきょうだと思ったのではないのでしょうか。

私は、「大造じいさんとがん」を読んで、残雪の仲間を守ろうとするすがたは変わらないのに、それに対する大造じいさんの考え方が変化するところが面白いと思いました。